

# 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874400308		
法人名	社会福祉法人尚徳会		
事業所名	グループホームとよおかの里		
所在地	兵庫県豊岡市香住1272番地		
自己評価作成日	平成23年5月25日	評価結果市町村受理日	平成23年10月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874400308&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2874400308&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成23年7月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【力を入れている点】</p> <p>利用者様の残存能力を生かしながら、出来ることはしてもら。また、できなくなりつつあるものでも、職員と一緒にやって行くこと。</p> <p>生活リズムを大切にするという観点から、毎食手作りの物を提供し利用者と一緒に調理をすることで、達成感を利用者・職員があげてもら。こと。</p> <p>【アピール点】 施設の周囲が田んぼや山に囲まれてのんびりしている点</p>
--

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれたのどかな環境のなか、一際目立つ3階建の建物の1階にあるグループホームである。2・3階は同法人の特別養護老人ホームで連携が図れるため、入居者や家族に安心感をもたらしている。独自の「笑顔で楽しく」という理念のもと、認知症が進んでも一瞬でも楽しんでもらおうという意欲ある支援をしている。笑顔を引き出すために、職員も一緒に楽しみ笑顔での対応を心掛けている。食事は全て献立から考え、買い物・調理・後片づけなどできる事を共にしてもらっている。家庭的なあたたかな食風景が印象に残った。また外出することにも力を注ぎ、犬の散歩や近隣の飲食店へ出かけることを通じて、地域に溶け込もうとしている。地域密着型サービスとして役割が担えるよう期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>当グループホームでは、「笑顔で楽しく」を理念とし、リビングに掲示し常に見れるようにしている。</p>	<p>前管理者の時に「笑顔で楽しく」を理念とし、利用者・職員が共に楽しく過ごせるように実践している。地域密着は法人全体の課題として取り組んでいる。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>日常的には行えてないが、地域のお祭りや近くの小学校のボランティアクラブと年2回交流会している。</p>	<p>施設の隣にある神美(かみよし)小学校のボランティアクラブの児童12~3人が年2回事業所を訪問し、七夕祭りの歌の発表や利用者の肩もみ等を行い交流している。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議の場で認知症の研修を行ったり、昨年11月11日の介護の日に施設全体で介護や認知症について研修会を行なった。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の場で出た意見については、グループホーム会議の場で報告して、職員と共に話し合い、サービスの向上が図れるようにしている。</p>	<p>前年度は年に2回の開催だったが、本年度は委員の理解も得て3回の開催を予定している。委員には香住区長、民生委員、公民館長、小学校長、交番警察官、市地域包括支援センター職員の参加がある。</p>	<p>前回の評価で「ボランティアや災害時の対応など、利用者が地域で暮らすことを考えその糸口にもしてほしい」とあり、年6回の開催に向けた工夫と会議を活かす取り組みを期待したい。</p>
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>日頃からは取れていないが、地域ケア会議やケアマネ連絡会などに出席して情報発信を行ったり、情報をもらったりしている。</p>	<p>市の介護保険事業の推進には意欲が感じられ、市主催のケア会議や旧豊岡地区ケアマネージャー連絡会には出来る限り参加し、市との連携に努めている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎年行われる施設での身体拘束研修に職員は出席しそれらについては、理解はしている。ただし、利用者の安全を守る観点から、玄関の施錠は、やむを得ず行なっている。</p>	<p>夜間は職員が1人で、離設利用者もあり施錠を行っているが、日中は施設連絡ドアを含めて施錠は行っていない。職員は身体拘束研修により拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7	(6)	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止については、年1回グループホーム会議の場で学ぶ機会をつくり虐待防止に務めている。</p>	<p>管理者は事業所内では職員の乱暴な言葉の使用等に常に気をつけ、認知症高齢者に携わる専門職として資質の向上を目指している。常にその都度話し合いも行っている。</p>	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修があれば、管理者及び職員もできる限り出席している。	年1回の研修に管理者、職員は参加し、事業所内にも市からのパンフレットを置いている。職員の理解については十分に理解できていない部分もあるため利用者支援に向けて再確認するとの事。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できている。	契約は事前に重要事項説明書に基づいて管理者が事業所の説明を行い、併設施設への入所や利用料金等家族が特に気になる所を重点的に説明し納得してもらってから契約の締結に至っている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	できている。	年1回の施設全体の敬老会の中でグループホームの利用者家族と交流を行い、独自行事では「納涼祭」「遠足」に家族も案内し参加してもらっている。月1回の行事を実施し7月は流しそうめんを行った。	家族の行事参加が多くアンケートまでは要望しないが、「家族・利用者の声を聞く」という姿勢を継続し、よりコミュニケーションを深めて運営に関する意見を聞き反映する事を期待したい。
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回会議の場を設けている。	職員からは、法人、事業所共に意見が言いやすい環境にあり、毎日のミーティングと月1回の会議では職員が遠慮なく自分の意見を言うことができる。日々の業務でも発案できる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で行われている研修には、すべて参加をしている。また、外部研修についても、できる限り参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度開設されたグループホームと勉強会など行えるように、秋頃にはできるように検討している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、リーダーと管理者が面接に行き、直接本人から話を聞いている。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前には、リーダーと管理者が面接に行き、直接本人から話を聞いている。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接の場で本人、家族の話聞き努めている。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ミーティングや会議の場で、ともに作業等を行うように指導している。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度より家族も参加しての行事を企画している。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との話の中から、聞き取りなじみの場所へ行ったりしている。	利用者の生家や自宅訪問等も外出を兼ねて行っている。本人は忘れていても身内の人がいたりして昔の話ができたりし、職員も支援したことを共に喜んでいる。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しているようであれば、職員が傍で話や歌を歌うなどしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所された方については、行事や施設内の散歩をしたときに面会をしているが、ご家族とは行っていない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々入居者と接していることで、意向を聞き取ったり、感じ取ったりしている。	最近、職員の発案で漬物クラブを行い、女性利用者は積極的に参加し、その際家での思いつきや若い職員へ漬け方を教えたりして盛り上がった。	入居当初は利用者一人ひとりの生活歴等をまとめているが、日々の聞き取り等での記録が不十分である。今後は、利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、発展的な支援を期待したい。
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時に行なっている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初回面接時に行なっている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には、面会時に、職員には、月1回の会議でニーズなど上げてもらい介護計画の作成に当たっている。	管理者が介護支援専門員を兼任し、6ヶ月に1回利用者一人ひとりの担当職員を中心にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。他の職員も計画の実施には協力的でチームケアの実践ができている。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人にケア記録を入力している。また、毎日行なっているミーティングで情報の共有を図っている。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者が重度化してきたときには、家族に意向を聞き、希望があれば、併設施設へ入所するなどしている。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しているが、利用者ができるようなものがない。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できている。	内科については協力病院が理解があり、医師も管理者等の職員と連携がとりやすい。また、往診もある。精神科受診等の専門医療機関は家族対応だがそれ以外の受診は事業所が対応している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があれば、施設看護師へ連絡し指示を仰いでいる。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側に情報提供している。退院時には、病院側から連絡をもらい必要なことは相談している。	管理者は医師の説明時には家族に付き添って説明を受けている。法人と医療機関の関係もあって、事業所も連携はとりやすい。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族には、意向を伺い、施設でできることは、契約時に話をしている。	これまでも協力病院の往診等で終末期対応を行ったこともあるが、指針的文書はなく入所契約書と重要事項説明書で家族に説明し、重度時の対応は状況に応じて併設施設との連携も含めて行っている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	できている。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は出来ていないが、施設全体の避難訓練には参加しており、また、グープホーム独自に昨年は避難訓練を1回おこなった。	前回の評価で事業所単独の訓練の実施を課題とし実施した。実際に行うと改めて利用者誘導の大変さ等の課題も見え、改めて訓練の必要性を認識した。	認知症高齢者が共同で生活する場所でどのように災害時に地域の人たちが協力できるかを理解してもらうための働きかけを今後も続け、訓練も手順等具体的な内容を再確認してほしい。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応できている。	利用者が他の利用者のプライバシーについて聞いてくるが、職員としての守秘義務については常に意識している。職員は管理者を中心に接遇の中でも高齢者に対して丁寧に接するようにしている。	
37			利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中から希望を聴いたり、自己決定ができるようにしている。		
38			日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できている。		
39			身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できている。		
40	(19)		食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の嗜好を聞き取っており、嫌いなものがあれば、できるだけ代替品を提供するようにしている。また、利用者の能力や精神状態を見ながら、簡単な盛り付けなどはしてもらっている。	男性利用者も、もやしの芽とり等簡単な事をしてもらったり、女性利用者は漬物クラブに参加するなどしている。またおやつ作りでホットケーキを職員と一緒に作ったり、誕生日には利用者の好きな物を提供している。	
41			栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェックは、以前から表を作り把握していた。6月からは、食事量チェックも行ない食事量の把握も行うようにした。		
42			口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	見守りや介助が必要な方については、行なっている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できている。	在宅時布オムツだった利用者が、入居後は紙パンツになり、また定時のトイレ誘導で排泄可能となった。今後も、現在の能力を落とさないように、最低限トイレ誘導は継続する。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できている。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴は、職員が少なくなることもあり行っていないが、午前・午後と入浴を行っておりタイミングに合わせて入浴を行っている。	入浴は利用者一人が週に2回を基本としているが、希望があれば回数を増やすことも対応している。入浴拒否の利用者には体重を計ることを口実にしたり、特定の職員が声かけするなどの工夫をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	できている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	できる限り希望に添えるようには行っている。	女性利用者の歓迎会を兼ねて、女性利用者と女性職員が「女子会」という名称で思いつきで外出に出かけるなどしている。また、毎日の犬の散歩もあり、外出時は写真も撮り家族にも喜んでもらっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で管理できる人については、希望に応じて渡しているが、管理できない人については、施設が管理している。</p>		
51			<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>出来ている。</p>		
52	(23)		<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>トイレや居室がわからない人については、ラミネートシールでわかりやすくしたり、表札を拡大している。</p>	<p>リビングは明るく広い。共有の洗面台は車いす対応のものも設置され、使いやすく工夫されている。職員のスペースからはリビングが見渡せて様子を見守りながら作業ができる。習字や外出時の楽しそうな笑顔の写真が飾られていた。</p>	
53			<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>できている。</p>		
54	(24)		<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>できている。</p>	<p>居室はゆったりしている。備え付けの家具などがなかったため、思い思いのタンスなどの持ち込みで個性ある居室になっている。畳を敷いて布団で寝る方もおられる。家族などが一緒に泊まれるスペースも十分にある。</p>	
55			<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>できている。</p>		